

比良山系縦走

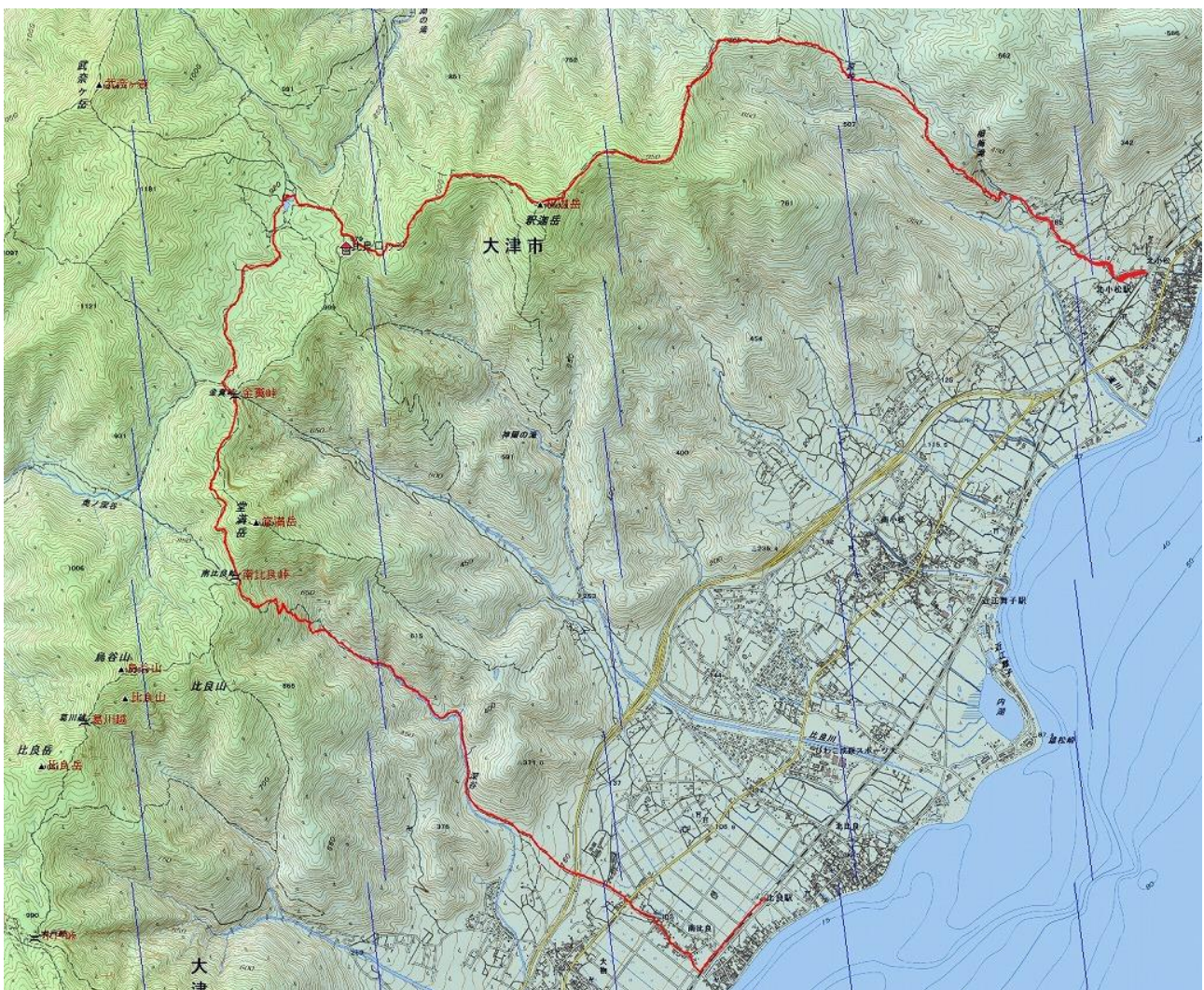
【日程】 2015年4月29日

【エリア】 比良山系

【形態】 ハイキング

【メンバー】 K岡、I藤、K藤、I田、U屋、M西、T島、T山、
T岡、チョット岳、M本、M尾、O田

【報告】 K岡



《ルート／タイム》

4月29日

湖西線・北小松駅（8：25）～登山口（8：46）～第一滝見台（9：00）～第二滝見台（9：10）～涼峠（9：35）～ヤケ山（10：18）～ヤケオ山（11：14）～釈迦が岳（11：50/12：08）～八雲ヶ原（12：45/13：30）～金糞峠（14：07）～南比良峠（14：52）～湖西線・比良駅（17：10）
行動時間：8：45（含休憩）

《報告》

一般の交通機関を利用した山行は何時頃か思い出せないほど遠い昔だ。今日は30～70代の古参会員中心の老若男女13名の長丁場のハイキングで下山後、京都で懇親会を開催して祝杯をあげるとのことで日頃ない集合となった。このような取りはからいにしては古参中心とは、いささか寂しい感じはしないでもなかったが、歩きだすと、そんなことは取り越し苦労で、和気あいあいと結構楽しく懇親会も十分に盛り上がった。

湖西線の車窓からは本日のコースの稜線が眼前に、特徴ある山容を指さしあれが堂満岳、あれが釈迦ヶ岳、あの辺りが金糞峠、南比良峠と地図を眺めて、早や山の心となる。

登山口から涼峠辺りまでは露岩道で歩き難く気温も高く汗を拭き拭き歩く。それを過ぎる辺りからは芽吹きだした自然林の中、涼風を感じながらの快適な歩きとなる。視界も開け眼下に琵琶湖が。釈迦が岳の最後の急登も何のその、歳のわりには快調なペースで上がりきった。予定時間を上回るペースであるが八雲ヶ原まで頑張り昼食とした。

食後は、リーダーM尾氏の持参してくれたブランドコーヒーと有名店の最中やカステラの振舞いを受けて一同ハッピーを連発。

その後の金糞峠までは小川の流に沿い新緑のなかを散策していく。丁度、その辺りから満を持していたかのように、T山氏は一足先にゴールを目出してトレランを始めた。軽やかな足取りで、両手でリズムを取りながらの動きは軽快そのものである。

金糞峠では下から吹き上げてくる涼風に癒され堂満岳の腹を巻き南比良峠までは順調にある。そこから最後の峠の荒川峠までの途中で登山道が大きく崩落しており、少し迂回したところから、コースを外れた。すこし進みコースを外れていることに気付く。しかし、地図で確認すると点線の登山道に少し入っているようであったが、ペンキやテープの道標もあり方向的にはおかしくないのこのまま下山することにした。しかし、地図上の点線の下山道には急坂難道、ロープありの注記がある通り、長いロープを何回も何回も伝い、樹や根っこに掛り悪戦苦闘の下山が約1時間続いた。緊張感を持ってステップバイステップで一歩一歩慎重に、尻もちもつかずに下山できたのは、さすが古参だと自画自賛だ。

最後は、荒れた川を数回横切り、長い林道があるき最終目的地の一つ手前の比良駅につき約9時間におよぶ縦走が終わった。



(左) 釈迦ヶ岳を目指す。右はヤケオ山



(右) 新緑に映えるミツバツツジ



(左) 八雲ヶ原に到着。以前の景色はどこへ？



(右) ヤクモ池での集合写真



(左) 金糞峠への癒しの沢道歩き



(右) 南比良峠からの下りは急坂でした